



# オーガニックやまぐち

## 部会活動の到達点と今後の課題について

(オーガニックの産直・学校給食への支援に向け農家・消費者とも連携して)

山口市有機農業推進協議会産直部会長 原田正暁

気象危機、コロナ、ウクライナの三つの危機で、一日以上食事が採れない人口は世界で三億二千三百万人と言われ戦後最悪の食料危機となっています。

このようななか、先進国の食料自給率は約 70%以上で日本は 38%と最下位です。しかも農産物の安全性は農薬、食品添加物、遺伝子組み換え、ゲノム編集技術の導入や種子法の改正等により、日本の食料は外国に牛耳られ、食料の確保や安全基準とはほど遠い制度となっています。

今外国からの食料の輸入が止まれば、日本は飢餓状態になるとも言われており、唯一食料を守ることが日本の安全保障と考えています。朝市等での消費者との対話では、このままの日本では食料がなくなり、家族の健康も守れないと、自ら耕作放棄地を借りて有機農業を体験する家族や本部会が開催する有機菜園教室に参加される方も少なくありません。

国は、2050 年までに有機耕作面積を全耕地面積の 25%に当たる 100 万 ha への拡大を目標に推進しており、この間、本部会も行政の支援や消費者とも連携して、次の事業に取り組んで参りました。

- ① 店頭販売・軽トラ市等の産直活動
- ② 環境保全・循環型農業の推進
- ③ 食育委員会との連携でエシカル給食へ有機食材の提供
- ④ 有機認証制度の向上と拡大
- ⑤ 各認証・環境保全型農業直接支払制度への支援
- ⑥ 新規就農者への支援
- ⑦ JA の協力による後押し援助等に、不十分ながら取り組んできました。



有機菜園教室での実習風景

今後の課題としては、事業の柱である認証農業者を増やすことが十分できなかつたことが挙げられます。何事も認証者を増やさないと各事業は進められないことを痛感しました。この反省に立ち、各事業の進展を図るため、各地区に出荷組合を設立し、産直・給食の他、各助成事業等の支援により、農業者の所得確保と中山間地域の農業振興

への発展へ繋げることが大切と考えております。

本部会はアグロエコロジーこと持続可能な農業の推進に向け、食料の安全と農業を守るため消費者と連携して共同の輪を更に広げたいと考えております。関係者の皆様のご支援を賜りますようお願いいたします。

# うっきーの突撃レポート

## “就農10年目！原田慎司さんの畑に密着”

協議会・食育委員長で食育指導士うっきーこと西本葉子さんに、今回は協議会・生産者会員の原田慎司さん取材していただきました。ホームページにも掲載しますが、会報でも報告させていただきます。うっきーさんの分かりやすい文章をご賞味ください。

食育指導士うっきー西本葉子です。  
原田慎司さんは秋川牧園の生産者のお一人で防府市に10haの農地を持つ若手就農者。  
2023年で就農10年目を迎えます。

### サラリーマンから林業を経て 農業へ転身！異例の経歴！

サラリーマン時代に農業に興味を持って、まずは友人の手伝いから始めた原田さん。脱サラ後は林業で働きながら、空いた時間に農業をしていたそうです。そして山口県立農業大学の週末に学ぶコース「やまぐち就農支援塾」へ一年間通って、農業の仕事を増やしていき、稼げる専業農家へ見事な転身を果たします。

「林業に比べたら農業は楽です。」と語る原田さん。「山の中へ道具を担いで登り、それから一人で作業をしていたことに比べたら、畑まで機械を運ぶのも車で行けるんですよ。僕は9時くらいから5時まで畑で仕事して、昼ご飯は家に帰って嫁さんと一緒に食べる。これが幸せです。」と頼もしい笑みを浮かべてくれました。

原田さんは年間100tの有機人参を栽培し、就農希望者の研修も積極的に受け入れ、山口市からも若者が参加しています。

人参の他に、玉ねぎ、サツマイモ、里芋などを化学合成農薬や化学肥料を使用せずに露地栽培をしておられます。

地域の中で後継者のいない畑を引き継ぎながら農地を拡大。畑を守ることが昔ながらの景観を守ることに繋がると地域への思いも原動力。



### 山口県有機農業研究会・会長に就任 原田さんの活躍に期待が高まります！

原田さんは秋川牧園が事務局を務める「山口県有機農業研究会(有機研)」の会長にこの度就任されました。そしてこの機に有機研は、県内の有機農業団体が結束し行政と協同して有機農業を推進する「山口県有機農業推進団体連絡協議会(有機連)」に復活。当協議会も有機連に所属しており、2022年12月に県庁で開催された県議さんとの意見交換会では同席させていただきました。若手就農者の原田さんの声により活気が生まれ、有機農業の発展と推進にさらなる飛躍が期待されます。

## 「実家が造園業だったので機械を効率よく使うことが頭にあったと思います。」

原田さんの畑は、ご自宅を囲むように広がり、家の横には野菜用の大きな冷蔵庫があって、生産・収穫・保存・流通の流れが効率よく回転しています。ご実家が造園業をされていたのを見て育ち「まず設備」が頭にあったから設備をしっかり作ったと話されました。原田さんの頭の中には計画的に畑を作って収益を上げる仕組みがあるんですね。そしてほとんどの畑で有機認証を取っているのも立派です。(※原田さんの畑は全て農薬・化学肥料不使用です)



収穫が終わった人参は専用の冷蔵庫で保存

## 「有機認証は大規模でやらないと相手にされないからね。」

大規模で生産するために品目を絞ること、消費者のニーズに合っていること、そして自分が好きで作りやすい野菜を考えてこられたそうです。大規模にすることで地域の雇用にも貢献しておられます。



## 「ほとんど草抜きはしませんよ。」

有機農業といったら草抜きに追われるイメージがあると思うのですが、原田さんは草抜きに追われないような畑作りをしているそうです。

収穫が終わった畑は草が生えているのですが、それを耕運機で一気に土の中に漉き込んで、畝を作ってマルチを敷いて、また野菜を作るそうで、わざわざ畑の草を抜きに行ったりはしないとか。(そう聞くとなんだか簡単そうに聞こえるのですが・・・^^;) )



マルチ敷きまで終わった畑。  
畝の間には草は生えていない。  
やがて野菜と共に畝間に草も育つがまた土に戻される。

## SDGsの流れからも有機農業が注目！ 「儲からない・大変」といったイメージを打破してくれる若手生産者・原田さん

今回、原田さんにお話をお聞きして印象的だったのは楽しそうで幸せそうなお姿でした。自分の好きなこと、家族の時間が持てること、地域にも貢献できること、そして稼げる・・と言うのがその理由だと感じました。

農業は深刻な後継者不足が悩みの種ですが、こうした素敵な実例を広めて、若き就農者さんが増えていったらと願っています。

<最後にイベント紹介>.....

### 「菌ちゃん農法実技&講義」

講師：吉田俊道先生

5/26(金)15:00~18:00

※ 14:30 に山口市下小鯖に

「小鯖ふれあい市」集合

参加費 ¥ 3000 (定員 30 名)



やまぐち食育くらぶ主催/当会産直部会協力

<お申込みお問い合わせ> 児玉 080-3055-4191

## 「予防医療×食育講座」(主催:「やまぐち食育くらぶ」)報告

結成から14年、家族の健康を守る食を伝えてこられた「やまぐち食育くらぶ」が、令和5年3月19日「山口市商店街中市コミュニティホールNAC」において、「予防医療×食育講座」を開催されました。予防医療に力を入れておられる海風診療所の沼田先生の講演は、今までの常識をひっくり返すような、とても分かりやすいお話でした。多くの若いお父さんやお母さんに聞いてほしい内容でした。

沼田先生は、お医者さんになった経緯などの自己紹介や施設紹介から話を始められました。人々の役に立つお医者さんになりたいと、当初は救急医になろうとされますが、対処療法の医療ではなく、根本治療を目指すため予防医療へとシフトされます。そして郷里周南市で実家の一室から治療を始められました。今では静かな住宅街にガラス張りの明るい診療所を開院されています。どなたでも気軽に来なくなるような病院をつくろうと、1階にはカフェ、2階は鍼灸接骨院と診療所、3階に心理カウンセリングルームとトレーニングスタジオがあるのだそうです。ただ現在は、1階のカフェは閉店中だとのことでした。

沼田先生は、平均寿命＝健康寿命とするために、次のことに気を付けるようにとおっしゃいました。つまり食習慣の改善によりミトコンドリア活性を高め炎症体質に陥らないようにする、動脈硬化を進まないようにする、運動習慣を改善して筋肉や骨を丈夫に保つようにするというのです。また食が重要であることから、食品

表示をよく見る、精製糖質を制限する、油の摂り方に気を付ける、食卓に5色をそろえること

が大事だとも述べられました。さらに精神コントロールの重要性にも言及されました。2010年のアメリカでの研究成果を引用して、寿命に影響を与える要因として、「タバコを吸わない」、「飲み過ぎない」、「身体を動かす」、「太り過ぎない」より「つながりがある」が最も大きいとおっしゃいました。

以上のようなお話を踏まえ、先生は「ニコニコ、テクテク、モグモグ」つまりストレスを少なくし運動を行い食にも気を付けることで、健康寿命を伸ばすことができると説明されました。このような素晴らしいお医者さんが山口県にもいらっしゃるのだと嬉しくなりました。

(文責:東孝次委員)



山口市有機農業推進協議会

【事務局】

山口市農業振興課 TEL:083-934-2817 FAX:083-934-2651

E-mail:n-shinkou@city.yamaguchi.lg.jp